

一般社団法人 日本地質学会関東支部総会

2011年度 活動報告

2011年4月8日（日）

2011年度 活動方針

- ◆ 方針 1 : 本会とともに震災に向けた積極的な活動をする
- ◆ 方針 2 : 2011年水戸大会の準備・活動
- ◆ 方針 3 : 地質学の社会に向けた普及・広報活動
- ◆ 方針 4 : 多様な分野の会員へのサービス提供

3.11東日本大震災が水戸大会のテーマ・見学会・運営にも大きな影響があった

関東支部幹事会 (1回／月)

- ◆ 4/24 総会
- ◆ 5/9 第1回 幹事会(講習会報告・行事計画)
- ◆ 6/10 第2回 幹事会 (見学会計画・水戸大会)
- ◆ 7/14 第3回 幹事会 (見学会計画・水戸大会)
- ◆ 8/22 第4回 幹事会 (水戸大会準備・担当)
- ◆ 10/6 第5回 幹事会 (水戸大会報告・見学会)
- ◆ 11/10 第6回 幹事会 (見学会・功労賞・選挙)
- ◆ 12/15 第7回 幹事会 (功労賞募集・地質研修会)
- ◆ 1/20 第8回 幹事会 (功労賞決定・選挙・方針)
- ◆ 2/17 第9回 幹事会 (支部選挙・次年度体制)
- ◆ 3/19 第10回 幹事会 (選挙報告・総会準備)
- ◆ 3/20 幹事有志による長期方針会議 (箱根)

方針１：本会とともに震災に向けた積極的な活動をする

- ◆ 4/6支部幹事会で議論後に、「2011年東日本大震災を受けて地質学研究者・技術者・教育者としての社会的・歴史的責任を検討する臨時特別委員会の設置」を本会へ要望
- ◆ 4/29 第1回作業部会発足
池田安隆・伊藤谷生・佐藤比呂志・重松紀生・穴倉正展・中山俊雄・平田直・藤井敏嗣・藤本光一郎（幹事）・山本高司（幹事）
- ◆ 5/2 メール審議・報告文作成
- ◆ 5/21 東日本大震災作業部会報告

東日本大震災対応作業部会報告(1/2)

1. はじめに

2. 総括 ー地質学コミュニティの重い責務と課題ー

- (1) 集積されつつも活かされなかった地質学的知見
- (2) 地震災害と地域防災教育, 市民の防災意識向上の課題

3. 提言の骨子

- (1) 超巨大地震の実態解明と防災・減災へ向けて
 - 1) 東北地方太平洋沖地震による海底地震断層の全面的緊急調査・探査
 - 2) 南北両域における大地震への緊急対策
 - 3) 全国的な沈み込み帯のプレート境界地震の履歴の調査と津波対策

東日本大震災対応作業部会報告(2/2)

(2) 復旧・復興への貢献

- 1) 余効変動による地盤の沈降や隆起
- 2) 液状化
- 3) 斜面災害やダム決壊
- 4) 地質研究者・技術者の参画
- 5) 原発事故による地質汚染
- 6) 被災地域の自然・文化資産の修復と保全

(3) 長期的な防災・減災へ向けて

- 1) 人材育成
- 2) 防災教育（地学教育）
- 3) 地質の情報を社会の基盤情報に

4. 終わりに

いわき活断層調査

7/9、10

参加者

関東支部：伊藤・山本・加藤

東大：池田・学生

静岡大：狩野

帝京平成：佐藤

4.11発生地震により地表に
正断層が発生

- ・湯ノ岳断層、井戸沢断層
(塩ノ平断層)を観察



いわき活断層調査



田んぼに連続する塩
ノ平断層



被災した田人中学校で昼食

方針 2：2011年水戸大会の準備・活動

- ◆ 6/22 水戸大会合同打合せ（茨城大）
水戸LOC企画を地震・津波を含めた自然災害を取り上げることに大きく変更
- ◆ 8/5 水戸大会会場下見（茨城大）
- ◆ 9/9～9/11 水戸大会 学術大会（茨城大）
- ◆ 9/12～13 見学会
- ◆ 関東支部担当
 - ・ 広報活動（支部会員メール配信・NEWS誌・ジオフラッシュ）
 - ・ 見学会コース準備、案内書編集委員
 - ・ シンポジウム 「関東盆地の地質・地殻構造とその形成史」
共催：東大地震研
 - ・ トピックセッション 「関東平野の更新統層序とテクトニクス」
共催：日本第四紀学会
 - ・ 東日本大震災関連ポスター
 - ・ ランチョン 応用地質部会 JABEE
 - ・ 夜間集会 大震災関連
 - ・ 見学会案内者

水戸大会（日本地質学会第118年学術大会）

- ◆ 会期：2011年9月9日～11日
- ◆ 場所：茨城大学
- ◆ 鉱物科学会との合同学術大会
- ◆ 参加者：1131名（会員1017名、非会員114名）
- ◆ 一般発表：780件（口頭466件、ポスター314件）
- ◆ シンポジウム 3 件(26講演)
- ◆ 見学会：10コース実施
- ◆ ランチオン：11件
- ◆ 夜間小集会：11件

見学会コース（全10コース）

- A："日本最古の地層-日立のカンブリア系変成古生層＜日立古生層＞"
- B："筑波山周辺の深成岩・変成岩＜筑波山＞"
- C："磐梯・吾妻・安達太良-活火山ランクBの三火山＜磐梯・吾妻・安達太良＞"
- D："常磐地域の白亜系～新第三系と前弧盆堆積作用＜常磐堆積盆＞"
- E："棚倉断層のテクトニクスと火山活動・堆積作用＜棚倉断層＞"
- F："栃木の新第三系－荒川層群中部の層序と化石および大谷地域の応用地質＜栃木新第三系＞"
- G："常陸台地の第四系下総層群の層序と堆積システムの時空変化＜下総層群＞"
- H："鬼怒川低地帯の第四紀テフラ層序-火山噴火史と平野の形成史-＜第四紀テフラ＞"
- I："伊豆弧衝突の最前線－関東のテクトニクス＜テクトニクス＞"
- J："地層を見る・はぎ取る・作る<地学教育>"

*** 福島原発事故を受けて一部ルート変更、放射線量を測定し安全確保**

水戸大会 会場下見（シンポ会場）8/5



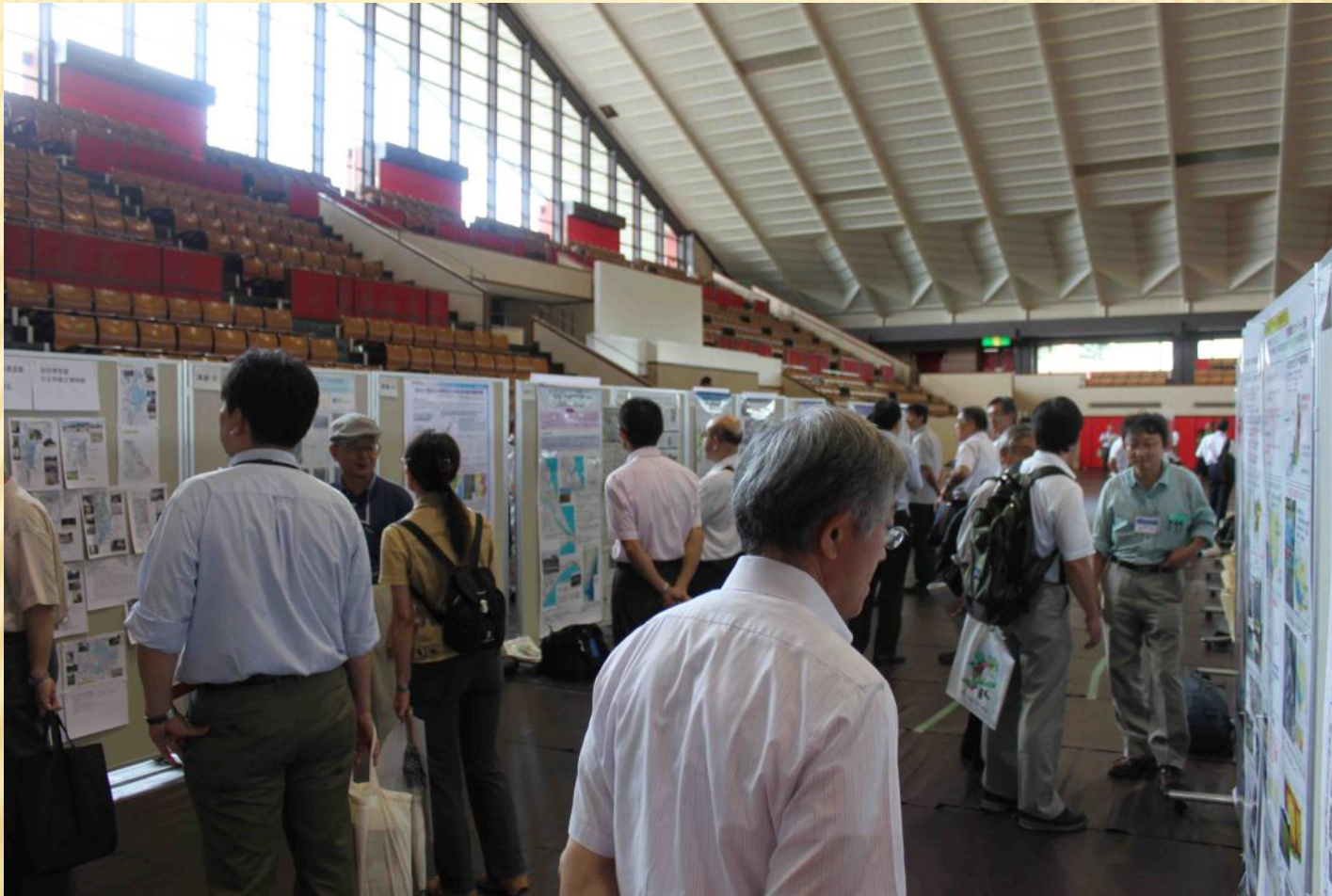
水戸大会開会式（9/9：武道館）



地質情報展2011みとー未来に活かそう大地の 鳴動ー 9/9～9/11



東日本大震災関連ポスター 9/10～9/11 (23編、38枚)



水戸大会 懇親会



見学会（A班：日本最古の地層-日立のカンブリア系変成古生層＜日立古生層＞）9/12～13



地質学の社会に向けた普及・広報活動

- ◆ 秩父ジオパークへ協力 関東支部後援
- ◆ 主催者のタイトル：秩父礼所巡りジオウォーキング
- ◆ 第3回
- ◆ 開催日：10月30日
- ◆ 参加者 約50名、後半雨天
- ◆ 感想：高齢の方が多かったが、健脚。距離や高低差が大きくコースの短縮や対象者別の班分けなどが必要か。山道のため縦に長くなるため、説明が聞きにくい点の改善必要。
- ◆ 第4回
- ◆ 開催日：12月11日
- ◆ 参加者：39人+11人のスタッフで、50人。
- ◆ 案内書の冊子のタイトルは「秩父礼所をめぐり、荒川がつくった段丘を見る」
- ◆ 感想：天気がよく、遠くまで地形をみることができました。秩父市街地の札所や神社、対岸の巡礼古道をめぐり、河岸段丘の地形、河原の名残を観察しました。

秩父ジオパーク（第3回）10/30 秩父札所巡り



石龍山 橋立堂 秩父札所28番



長泉寺 秩父札所29番



秩父ジオパーク（第4回）：秩父西光寺

12/11



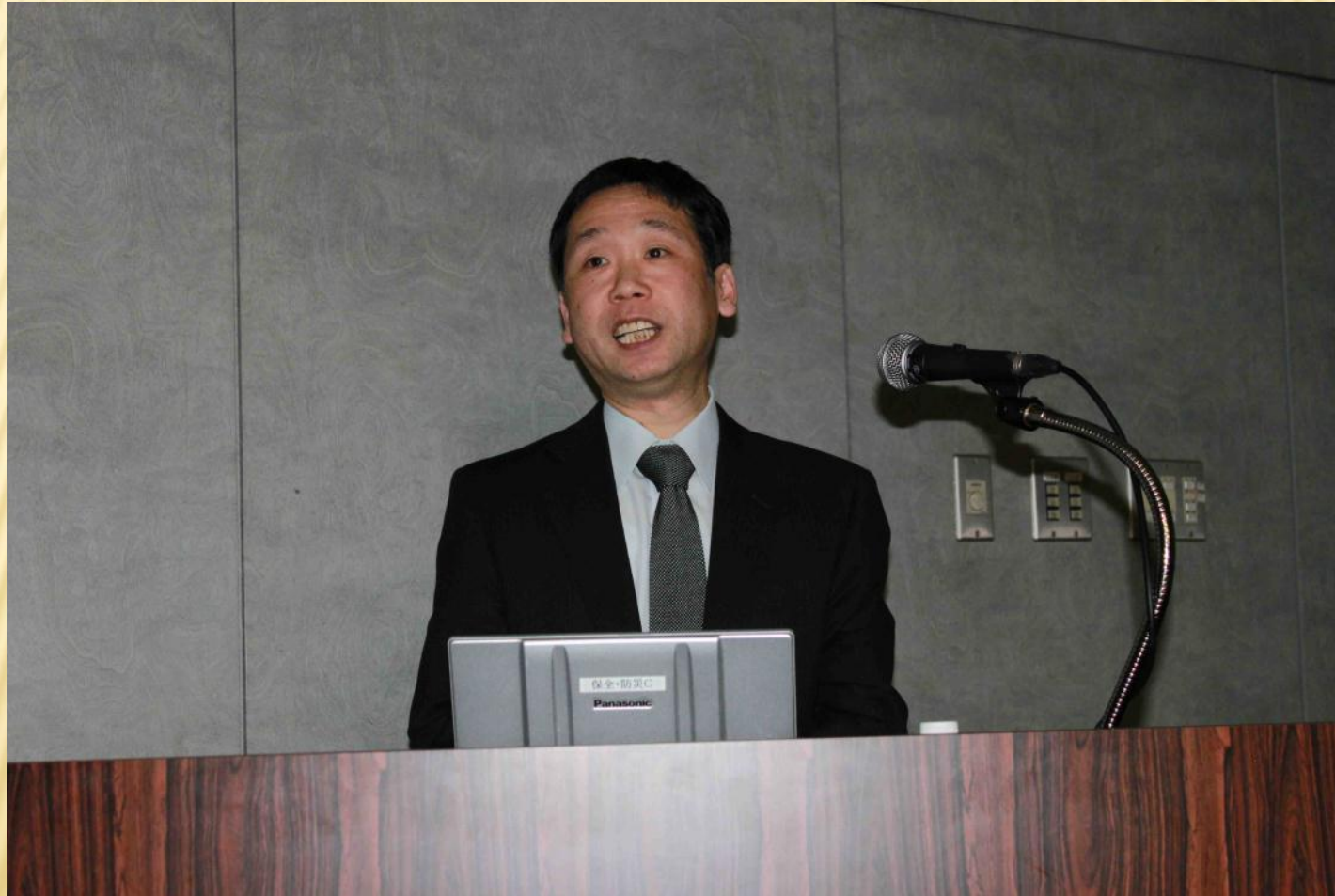
秩父ジオパーク：秩父今村神社



多様な分野の会員へのサービス提供

- ◆ 講演会 地質技術伝承講習会
- ◆ 日時：2011年4月24日（日） 14:00～16:00 大田区産業プラザ
- ◆ 共催：関東地質調査業協会
- ◆ 講師：三木 茂 基礎地盤コンサルタンツ（株）保全・防災センター
- ◆ タイトル 「トンネル事前調査の課題と物理探査」
- ◆ 参加者：61名 （学会員25名、協会28名、当日8名）
- ◆ コンサル参加者が多かったが、内容的に地質的な部分も多く興味が持たれた。また、現場の実践的な話で、物理探査の理解が得られた。

講演者：三木 茂氏



講演会場の様子



地質見学会 1

◆ 城ヶ島見学会

実施日：11月19日 下見 10月9日

講師：蟹江康光氏、山本由弦氏（JAMSTIC）

柴田健一郎氏（横須賀市自然・人文博物館）

三浦半島活断層調査会会員

参加者：全員で50人

- 当日は天候が悪かった。
- 見学コースとしては良かったが、天候の影響で説明が聞き取りにくかった（反省点）。

城ヶ島見学会下見 10/9



城ヶ島見学会 11/19 雨天決行



地質見学会 2

- ◆ 霞ヶ浦見学会 主催：応用地質学会 共催：関東支部
実施日：11月26日
講師：岡崎浩子氏（千葉県立中央博物館）、中里裕臣氏
（農研機構 農村工学研究所）
霞ヶ浦導水路内見学：霞ヶ浦導水工事事務所の副所長
参加者：全員で32人（講師2人を含む）地質学会関係者10人、
応用地質学会関係者20人
 - ・ 天候に恵まれた。
 - ・ 午前中露頭を中心現地討論した。午後、霞ヶ浦導水路内
見学では普段行けないとこの見学が出来て良かった。

霞ヶ浦見学会 午前：露頭観察



霞ヶ浦見学会 午後：霞ヶ浦導水路見学



関東支部活動 総括

- ◆ 水戸会に向け大学選定からほぼ3年の準備の集大成の年で有り、関東支部として大会に関与し、多くの経験を得た。
- ◆ 3.11大震災により、大会直前で会場校の茨城大学の被災や見学ルート of 放射線量の心配があった。結果的に、若干の変更があったものの多くの会員の参加があり大成功となった。
- ◆ 和歌山の台風による土砂災害など、地震に限らず多くの自然災害が起きている。とりわけ、関東地域は首都圏直下型地震や東海・東南海等の地震による被害が想定されている。関東支部としては、これらの防災に関して何ができるだろうか。
- ◆ これまで実施してきた活動を継承するだけでなく、新たな長期的なビジョンを構築し、これまで以上に社会に根ざした地質学を目指す必要がある。支部会員のご意見をお待ちしたい。

陸前高田(昨年11月初旬) ゴミ処理は依然として進んでいない



**宮古市 浄土ヶ浜 今年3月 海は穏やかで
津波とは無縁の景色をみせている**



奈良県十津川 殿山地区 土砂ダム 3月下旬



赤谷地区 土砂ダムに排水路が作られる（6月完成）



赤谷地区 崩壊斜面 四万十帯美山累層 ガリー浸食が続く



支部規約改正

一般社団法人日本地質学会関東支部規約

(1988年1月30日・1997年5月26日・2002年5月11日・2004年5月15日・2011年4月24日・**2012年4月8日一部改正**)

第1条 一般社団法人日本地質学会(以下地質学会という)の定款第2条第2項に基づき一般社団法人日本地質学会関東支部をおく(以下関東支部という)。

第2条 関東支部の所在地は別途定める。

第3条 関東支部は、一般社団法人日本地質学会(以下地質学会という)運営規則第10条により、当該支部として区分された都道府県に住所登録している、地質学会の正会員をもって組織する。

第4条 関東支部は、定款第3条にあるこの学会の目的に沿って、当該地域を活動の中心として事業を行う。

2 関東支部は、一般社団法人日本地質学会理事会規則第14条に定める支部長会議ならびに同選挙細則第5条第3項の支部選出理事との間で意思の疎通を図り、学会の目的達成と発展に寄与することとする。

第5条 関東支部には次の役員を置く。

幹事20名以内

幹事は新支部長1名・幹事長1名を互選する。

~~支部長1名~~

~~幹事長1名~~

~~監事1名~~

2 役員の任期は、以下に定める関東支部総会(以下支部総会という)から翌々年の支部総会までの2年とし、再任は妨げない。

3 役員の選任は関東支部総会において行い、地質学会の理事会に報告する。役員の選出方法および役員に欠員が生じた場合については別に定める。

第6条 関東支部の会議は定例総会および幹事会とする。

第7条 支部総会は支部長が招集する。

2 幹事会は支部長が召集する。開催については別に定める。

第8条 関東支部の事業計画および予算ならびに事業報告、決算報告は支部総会において承認し、理事会の承認を得ることとする。

第9条 支部総会は、支部会員現在数の20分の1以上の出席をもって成立する。あらかじめ書面または電磁的方法により意思表示したものは出席者とみなす。

2 総会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長が決定する。

第10条 関東支部の会計は地質学会の事業費、寄付金およびその他の収入をもって行う。

第11条 関東支部の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日までとする。

第12条 関東支部規則は、学会運営規則第11条に基づき支部総会において定める。

2 本規則は総会出席者の3分の2以上の議決により変更することができる。

第13条 支部は、支部活動に多大な功労・貢献があったと認められる個人、団体等を、別途定める規則に基づき顕彰することができる。

第14条 支部の運営に必要な事項はこの規則に定めるほか、幹事会の議決により別に定める。

附 則 1 本規則は、2011年4月24日より施行する。

附 則 2 本規則は、2012年4月9日より施行する。

支部細則改正

日本地質学会関東支部細則

(2004年5月15日制定, 2005年6月11日, **2012年4月8日 一部改正**)

支部長および幹事の選出

第1条 幹事の選出は、つぎの方法による。

- (1) 幹事会は任期最終年度の12月末までに、支部会員の中から選挙管理委員3名を選任し、選挙管理委員会を構成する。選挙管理委員会は幹事の選挙に関する事務を行う。
- (2) 選挙人および被選挙人は支部会員とする。
- (3) 選挙管理委員会は、本会ニュース誌により、期日および方法を当該年度の24月末までに明示して、幹事候補の推薦および立候補を求める。候補者の推薦は、推薦者(支部会員)の名を記して支部会員1名を推薦するものとする。
- (4) 幹事候補者が定数を越えた場合、選挙管理委員会は、本会ニュース誌により幹事候補者名簿、投票期日および投票方法を公示して、支部総会において支部総会参加者による無記名投票を求める。
- (5) 選挙管理委員会は得票数順で当選者を決定する。選挙管理委員会は、その結果を総会に報告し、任務を終える。
- (6) 幹事候補者が定数を越えなかった場合は、候補者名簿等の公示および投票を省略して全候補者を新幹事として決定できる。

~~第2条 支部長は、新幹事を招集して新支部長の互選を委嘱する。~~ **(支部規約へ)**

第23条 支部長は、これらの結果を総会に報告すると共に、本会ニュース誌により報告する。

附 則 1 本細則は、2005年6月12日より施行する。

附 則 2 本細則は、**2012年4月9日より施行する。**

支部会計 2011年度収支報告

一般社団法人 日本地質学会 2011年度収支計算書 関東支部

科目	支部合計	支部の管理活動	地質技術伝承講習会	城ヶ島巡検	霞ヶ浦巡検	備 考
1.事業活動収支						
事業活動収入						
補助金収入	23,000		23,000			技術伝承：共催の関東地質調査業協会から補助
事業収入	30,390			30,390		城ヶ島巡検参加費39名分
事業活動収入計	53,390	0	23,000	30,390	0	
事業活動支出						
事業費支出						
事務費支出	32,340		2,450	23,560	6,330	
旅費交通費支出	27,380			22,000	5,380	案内者交通費
通信運搬費支出	2,450		2,450			
消耗品支出	2,510			1,560	950	
施設費支出	7,500		7,500			技術伝承講習会会場費
保険料支出	2,300			2,300		
諸謝金・会費支出	20,000		20,000			技術伝承講習会講師謝金
事業費支出計	62,140		29,950	25,860	6,330	
管理費支出						
事務費支出	132,500	132,500				
旅費交通費支出	104,230	104,230				幹事交通費（幹事会・イベント運営）
通信運搬費支出	1,600	1,600				
消耗品支出	26,670	26,670				
施設費支出	14,000	14,000				総会会場費（次年度分）
管理費支出計	146,500	146,500				
事業活動支出計	208,640	146,500	29,950	25,860	6,330	
事業活動収支	▲ 155,250	▲ 146,500	▲ 6,950	4,530	▲ 6,330	

支部幹事選挙結果（立候補順）

- 細根 清治 株式会社 東建ジオテック 本店技術部
 - 石川 正弘 横浜国立大学 大学院環境情報研究院 自然環境と情報部門
 - 亀高 正男 株式会社ダイヤコンサルタント ジオエンジニアリング事業本部 地質解析センター
 - 加藤 潔 駒澤大学
 - 笠間 友博 神奈川県立生命の星・地球博物館 **（幹事長）**
 - 河村 知徳 石油資源開発（株） 技術本部 物理探査技術部
 - 小松原 純子 産業技術総合研究所
 - 亀尾 浩司 千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻
 - 入野 寛彦 株式会社 地圏総合コンサルタント
 - 川浪 聖志 明治コンサルタント株式会社
 - 方違 重治 個人コンサル
 - 田村 糸子 首都大学東京 都市環境科学研究科 地理学教室
 - 伊藤 谷生 帝京平成大学 **（支部長）**
 - 金丸 龍夫 日本大学文理学部
 - 細矢 卓志 中央開発株式会社 技術センター
 - 小田原 啓 神奈川県温泉地学研究所
 - 本田 尚正 茨城大学理学部 地球環境科学コース
 - 小安 孝幸 東電設計株式会社
 - 荒井 健一 アジア航測株式会社防災地質部
 - 荒井 良祐 川崎地質株式会社 事業本部探査部
-
- 幹事定足数 20名